

平成 20 年度後期・岡山大学大学院社会文化科学研究科博士前期課程入学試験問題

講 座	言語情報論
専門科目 2	日本語試験

問題 1

次の文章を読み、あとの問いに答えなさい。

問い

1 本文中の二重下線部の漢字の部分の読みを答えなさい。

ア 範疇 イ 即ち ウ 否か エ 従って

2 波線部「がゆえに」を使って、例文を作りなさい。ただし、本文で使用されている文を使ってはならない。

3 この文章で主張されていることを要約して述べなさい。その際、必ず、(19)(21)における「どこ」が英語では"what", "where"というように、異なった形となって現れる理由を述べること。必要であれば、本文からあなたが理解したことを、具体例などを使って解説してもよい。

注 1 「次の文章」とは、田窪行則著「現代日本語の「場所」を表す名詞類について」(『日本語・日本文化』12号, 大阪外国語大学留学生別科, 1984) の pp.91-93 を抜粋したものである (ただし、例文番号は問題に合わせた)。

問題 2

次に掲げる「きっと」と「必ず」の用例の観察を通して、類義語としての両者の類似点と相違点を明らかにしなさい。

注 2 「次に掲げる～用例」とは、『CD-ROM版 新潮文庫の100冊』(新潮社) から検索した用例の一部を掲げたものである。